

(5) 中富健康科学振興賞 (交付金額:200万円)

平成29年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	栗原 敏 (くりはら さとし)
生年	1946年
推薦学会	一般社団法人 日本体力医学会
現職及び略歴	<p>(学歴)</p> <p>昭和46年3月31日 東京慈恵会医科大学医学部卒業</p> <p>(職歴)</p> <p>昭和46年4月1日 東京慈恵会医科大学第二生理学教室助手</p> <p>昭和51年5月24日 医学博士の学位受領</p> <p>昭和51年 8月1日 東京慈恵会医科大学第二生理学教室講師</p> <p>昭和53年 1月12日 英国 University College London の生理学教室に留学</p> <p>昭和54年10月22日 引き続き米国 Mayo Clinic の薬理学教室に留学</p> <p>昭和55年1月22日 帰国復職</p> <p>昭和55年7月1日 東京慈恵会医科大学第二生理学教室助教授</p> <p>昭和61年4月1日 東京慈恵会医科大学第二生理学教室(現 細胞生理学講座) 教授</p> <p>平成24年4月1日 東京慈恵会医科大学名誉教授</p> <p>(役職など・学内)</p> <p>平成8年12月16日 学校法人慈恵大学評議員 (現在に至る)</p> <p>平成13年1月1日 東京慈恵会医科大学学長 (平成25年3月31日迄)</p> <p>平成13年1月12日 学校法人慈恵大学理事 (現在に至る)</p> <p>平成13年4月1日 東京慈恵会医科大学看護学科長 (平成20年3月迄)</p> <p>平成15年8月1日 学校法人慈恵大学理事長 (現在に至る)</p> <p>(役職など・学外)</p> <p>昭和51年6月3日 日本生理学会評議員 (現在に至る)</p> <p>平成元年6月14日 財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団理事 (平成7年6月16日迄)</p> <p>平成3年10月1日 日本学術会議第7部会体力科学研究連絡委員 (平成15年10月20日迄)</p> <p>平成13年6月1日 岡崎国立共同研究機構評議員 (平成16年3月31日迄)</p> <p>平成16年4月1日 公益財団法人上原記念生命科学財団理事 (現在に至る)</p> <p>平成17年11月1日 一般社団法人日本私立医科大学協会副会長 (現在に至る)</p> <p>平成18年11月10日 日本宇宙航空環境医学会理事長 (平成24年6月迄)</p> <p>平成22年6月11日 公益財団法人明治安田厚生事業団理事 (現在に至る)</p> <p>平成24年3月 一般社団法人日本生理学会理事長 (平成28年3月22日迄)</p> <p>平成28年8月17日 日本平滑筋学会名誉会員</p> <p>(日本体力医学会役員・委員など)</p> <p>昭和57年9月 評議員 (現在に至る)</p> <p>昭和58年4月 理事 (現在12期に至る)</p> <p>昭和58年～63年 編集委員・海外交流基金(アジア科学交流基金)運営委員長</p> <p>昭和63年～平成3年 庶務委員、編集委員会委員、学術委員会委員、渉外委員会副委員長、名取基金運営委員会委員</p> <p>平成3年～9年 編集委員会委員、学術委員会委員長、渉外委員会委員</p> <p>平成9年～15年 学術委員会委員長、スポーツ医学研修会実行委員会委員長、渉外委員会委員(アジア科学交流基金担当)</p> <p>平成25年 第68回日本体力医学会大会(東京)大会長</p> <p>(研究業績)</p> <p>I. 主な原著・総説</p> <p>1) Allen D.G., Kurihara S: Calcium transients in mammalian ventricular muscle. Eur Heart J 1(Supplement A): 5-15, 1980.</p> <p>2) Allen D.G., Kurihara S: The effects of muscle length on intracellular calcium transients in mammalian cardiac muscle. J Physiol 327: 79-94, 1982.</p> <p>3) Kurihara S, Sakai T: Effects of rapid cooling on mechanical and electrical responses in ventricular muscle of guinea-pig. J Physiol 361: 361-378, 1985.</p> <p>4) Kurihara S, Konishi M: Effects of β-adrenoceptor stimulation on intracellular Ca transients and tension in rat ventricular muscle. Pflügers Archiv 409: 427-437, 1987.</p> <p>5) Konishi M, Kurihara S: Effects of caffeine on intracellular calcium concentration in frog skeletal muscle fibres. J Physiol 383: 269-283, 1987.</p> <p>6) 栗原 敏: 運動と心臓. 体力科学 39 (5): 360-364, 1990.</p> <p>7) Kurihara S: Regulation of cardiac muscle contraction by intracellular Ca²⁺. Jpn J Physiol 44: 591-611, 1994.</p> <p>II. 主な著書</p> <p>1) Kurihara S, Konishi M, Sakai T: Changes in [Ca²⁺]_i induced by rapid cooling of single skeletal muscle fibres treated with low concentration of caffeine. In "Contractile Mechanisms in Muscle", Plenum Publishing Corporation, pp.565-568, 1984.</p> <p>2) Kurihara S, Saeki Y, Komukai K, Kawai M: Changes in intracellular Ca²⁺ signals induced by mechanical perturbations in mammalian cardiac muscles. In "Calcium as Cell Signal", Igaku-Shoin, pp.43-48, 1995.</p>

(5) 中富健康科学振興賞（交付金額:200万円）

平成29年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	伊藤 章（いとう あきら）
生年	昭和23年
推薦学会	日本体育学会
現職及び略歴	<p>（学歴および職歴）</p> 昭和46年 3月 東京教育大学体育学部卒業 昭和46年 4月 大阪体育大学助手 昭和53年 4月 大阪体育大学講師 昭和60年 4月 大阪体育大学助教授 平成 3年10月 大阪体育大学教授 平成 4年 4月 大阪体育大学大学院体育学研究科教授 平成13年 4月 大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科後期課程教授 平成19年 4月 大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科副科長 平成21年 4月 大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科科長 平成27年 4月 大阪体育大学名誉教授
日本体育学会における役職	評議員（平成7年～平成14年） 代議員（平成14年～平成20年） 理事（平成21年～平成24年） 国際誌（IJSHS）編集委員長（平成21年～平成24年） 副会長（平成25年～26年）
その他の学会における役職	日本スポーツ運動学会常任理事（平成3年）、日本スポーツ方法学会理事（平成7年） 日本バイオメカニクス学会理事（平成9年）、日本ゴルフ学会副会長（平成26年）
陸上競技指導実績	大阪体育大学短距離コーチとして指導した日本記録達成者 女子100mH（昭和56年）、女子400mH（昭和56年）、女子7種競技（昭和59年） 女子100m（平成6年）
主な受賞歴	平成10年 秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞 平成12年 日本バイオメカニクス学会学会賞 平成17年 日本体育学会奨励賞 平成20年 大阪体育学会奨励賞 平成22年 大阪体育学会奨励賞 平成25年 日本陸上競技連盟秩父宮章 平成27年 大阪体育大学大島鎌吉スポーツ功労賞 平成29年 文部科学大臣顕彰スポーツ功労賞
主な業績	著書6編、原著論文59編、総説等95編 Ito A., P.V.Komi, B.Sjodin, C.Bosco and J.Karlsson (1883) Mechanical efficiency of positive work in running at different speeds. Med.Sci.Sports Exerc., 15: 299-308. 伊藤 章, 齊藤昌久, 金子公有 (1987) 跳躍運動における反動効果: 下腿三頭筋の筋放電量と弾性エネルギーの利用. J.J.Sports Sci., 6: 232-238. 伊藤 章, 齊藤昌久, 淵本隆文 (1997) スタートダッシュにおける下肢関節のピークトルクとピークパワー, および筋放電パターンの変化. 体育学研究, 42: 71-83. 伊藤章, 市川博啓, 齊藤昌久, 佐川和則, 伊藤道郎, 小林寛道(1998)100m中間疾走局面における疾走動作と速度の関係. 体育学研究, 43: 260-273. Ito,A., K.Fukuda, K.Kijima (2008) Mid-phase movements of Tyson Gay and Asafa Powell in the 100 metres at the 2007 World Championships in Athletics. New Studies in Athletics, 23: 39-43.